

薬剤耐性対策について

～動物と人の健康を守るのは**あなた**です!～



豚編

農場での対策に当

抗菌剤の慎重使用の徹底により薬剤耐性菌の増加を抑制し、人及び家畜

1 感染症の予防による抗菌剤の使用機会の低減

(1) 飼養衛生管理の徹底(飼養衛生管理基準の遵守)

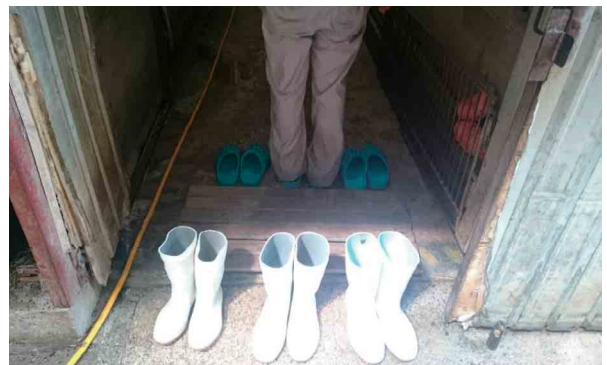
飼養衛生管理基準の遵守。特に農場内への病原体の持込み防止が重要です。



新たな疾病の侵入・発生を防止しましょう



農場入口の立入禁止看板と消石灰帯



豚舎入り口での履物の交換

(2) ワクチン接種の徹底

農場や地域の疾病発生状況を把握し必要なワクチンを積極的に利用しましょう。



感染・発症の防止/軽減につなげましょう

2 獣医師による診察と抗菌剤の適切な選択の必要性

獣医師の診察により原因菌を特定した上で、薬剤感受性試験により、有効な抗菌剤を選択することが重要です。第二次選択薬は他の抗菌剤(第一次選択薬)が無効な場合にのみ使用することとされています。

* 第二次選択薬(フルオロキノロン/第3世代セファロスポリン/15員環マクロライド/コリスチン^(注))

(注) コリスチンは、平成30年4月から第二次選択薬に位置付け。



適正なワクチン接種



薬剤感受性ディスクでの耐性確認

たつての留意事項

での抗菌剤の有効性を保つと同時に、農場の生産性向上を目指しましょう

3 獣医師による管理の必要性

飼養衛生管理を徹底することにより、抗菌剤の使用機会の低減や生産性の向上につなげるため、定期的に獣医師による管理指導を受けましょう。また、抗菌剤は獣医師の診察・指導に従って使用しましょう。



抗菌剤の「慎重使用」を実現しましょう



4 抗菌剤の習慣的使用の見直し

豚の導入時や移動・群編成時及び温度変化等のストレスによる感染症の予防に多くの抗菌剤が習慣的に使用されている可能性があります。このようなストレスによる感染症への対策は豚舎の環境や管理改善で対応しましょう。



耐性菌の増加抑制、コスト削減につなげましょう

5 生菌剤・有機酸等の利用

抗菌性飼料添加物の代替品の活用により、生産性の低下を防止しましょう。



腸内細菌叢を正常化することで消化管疾病等の改善が期待できます

6 オールイン・オールアウト/マルチサイト方式の勧め

豚舎の衛生レベル向上のため、現状の豚舎設備や設備の改造による実施、または、豚舎の増設・新設時に導入することを検討しましょう。



疾病の水平感染を最小限に抑える効果が期待できます



オールアウト後にきれいに消毒された部屋

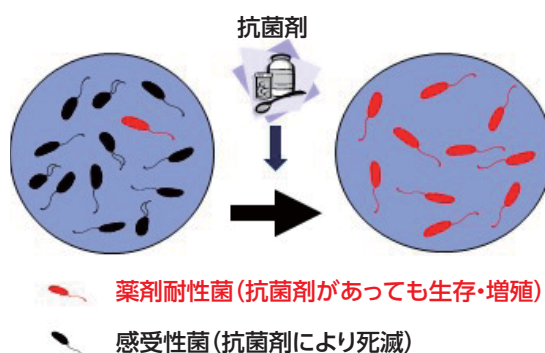
【薬剤耐性対策のキホン】

1 薬剤耐性菌とは

薬剤耐性菌とは、「抗菌剤が効かない細菌」のことで、抗菌剤の使い過ぎなどで増加し、人や動物の病気の治療を困難にします。

抗菌剤は、畜産分野では、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。

人の医療分野で増加した薬剤耐性菌による影響のほか、家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、畜産物等を介して人に伝播し、人の治療を困難にすることが懸念されています。



2 薬剤耐性問題を巡る情勢

平成27年に世界保健機関 (WHO) が薬剤耐性対策の国際行動計画を採択するなど、国際的な重要課題となっています。

日本では、平成28年に決定された行動計画 (薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン) に基づき、人医療分野や動物分野などが連携する“ワンヘルス”の考え方で対策を進めています。

我が国の行動計画の動物分野の対策の主なポイント

- 生産者や獣医師を含む関係者の理解醸成
- 薬剤耐性菌の動向調査の人医療分野との連携強化
- 衛生管理の徹底等による感染症予防
- 抗菌剤の慎重な使用の徹底
- 抗菌剤の代替りとなる薬等の開発

3 対策の基本 —抗菌剤の慎重使用—

- ① 衛生管理の徹底やワクチン使用により、病気を減らし、抗菌剤の使用機会を減らす
- ② 適切な診断に基づいて、抗菌剤の使用を真に必要な場合に限定するとともに、使用する場合にも、有効な抗菌剤を必要最小限で使用するという“抗菌剤の慎重使用”の取組の徹底が重要です。

公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL 03-6206-0832